



大決壊!

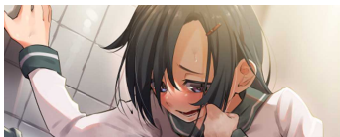
七机石

淫汗

∩∩1章目

スカートの中の野獣

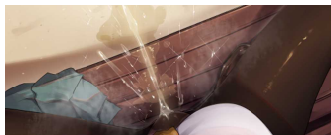
P 3



∩∩2章目

公園での失禁オナニー

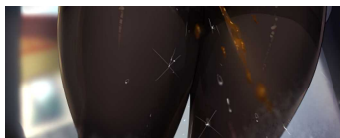
P16



∩∩3章目

もりもり膨らむ黒タイツ

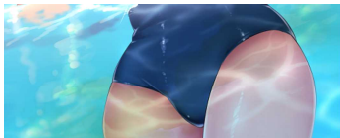
P37



∩∩4章目

プールでの水中おもらし

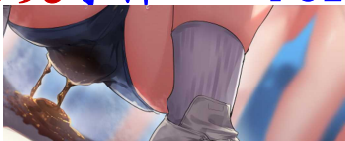
P66



∩∩5章目

ブルマでうんちおもらし事件

P82



∩∩6章目

放課後の角オナ

P109



∩∩ 既刊のCG

SS 1章目 スカートのなかの野獣

「おもらしなんかしちやいけないのに……。学校でわざとおもらししてるだなんて……っ」

しゅiiiiiiiiiiiiiiiiiiii……。
ぽた、ぽたた……。

くぐもった鋭い水音が止まらない。
黒タイツに覆われている琴葉の大きいお尻は、自らが漏らしているおしっこによってぐしょ濡れになっていた。
桃のような形をしたお尻から、おしっこが雫となって落ちていく。

「はあ……っ、はあ……っ、はあ……っ。おしっこ、止まらなくなってる……！」

じゅももももももももももももももも！



午後はずっとおしっこを我慢していた。

鋭いアンモニア臭が放たれ、琴葉自身を恥辱の泥沼へと引きずり込もうとしているようでもあった。

「気持ちいいの……、止まらなくなってる……っ。はあはあ、はあ、はあはあはあ……っ」

しゅわわわわわわっ。

しゅわわわわわわわわわわわわっ。

琴葉は、真っ赤に染めたほっぺたを弛緩させて、おしっこを漏らし続けていく。

きっと、ぱんつのなかでは頬と同じくらいにおまたが赤く火照っているはずだ。

「お尻、撫で撫でされてるみたいで……はあ、はああ……おまたも、熱くなってきて……あああ……」

じゅももももももももももも……。

もわっ、もわわ……っ。

琴葉の股間から漂ってくるのは、甘酸っぱくも生臭い少女の官能的な香り。

その香りは、黒タイツが食い込んでいる股間が痙攣するたびに強くなっていくようだった。

「し、汗が……」

もわっ、もわわっ。

黒タイツから、トロツとした蜜が滲み出してきている。

それは琴葉が性的に興奮しているなによりもの証だった。

琴葉は、おもらしで感じる身体になっていたのだ。

「おまた、熱くて……緩む……ううっ」

じゅもももももももももももも……。

熱く火照ったおまたからの失禁が止まらなくなっていた。

もはや琴葉が穿いているショーツも、黒タイツの股間からお尻にかけてぐしょ濡れになっていた。

濡れているのはおしっこのせいだけではない。

琴葉のクレヴァスは熱くほどけてパツクリと割れ、熱いハチミツを垂らしている。

「学校なのに、ぱんつを汚してしまうなんて。えっちなこと、したらいけないのに、我慢、できない……」

しゅiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiii……。

琴葉の股間から滲み出してくるのは、ネットリとした湿度を帯びた淫汁。

黒タイツに覆われているお尻は、愛液に濡れて淫靡な艶をまとっている。

やがて、おしっこの勢いも落ち着いてきて――、

「はあはあ、はあはあ……んんっ！」

プルルッ！

ぷつつっしやあああああ……！

琴葉は小さく身震いをすると、仕上げといわんばかりに勢いよくおしっこを噴き出す。

それっきり、琴葉のおもろしは唐突に終わった。

だけど熱くなった股間からは、止めどなく愛液が滲み出してきている。

「はあ、はあ、はあ……」

キュンッ！ キュンッ！ キュンッ！

黒タイツとクロッチが食い込んでいる縦筋が蠱惑的に痙攣すると、男を求めるかのようにヨダレを垂らす。

琴葉のお尻は愛液でヌルヌルになり、甘酸っぱくも生臭い少女の香りを漂わせていた。

「ぱんつ、お尻のほうまでぐしょ濡れになってる……あはっ」



